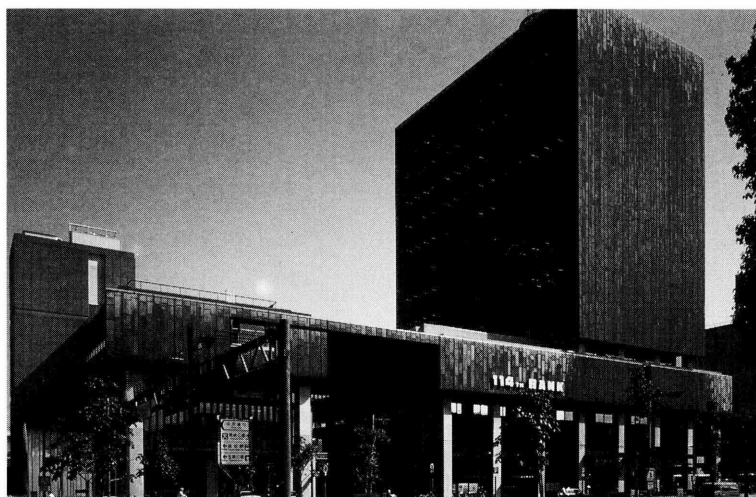


百十四ビル

所在地 高松市亀井町
用途 金融店舗・事務所
竣工年度 1966年
所有者 (株)百十四ビル
日本橋不動産(株)
設計者 (株)日建設計
施工者 (株)竹中工務店
維持管理者 (株)百十四ビル



【審査評】 百十四ビルは、昭和41年に百十四銀行を主体としたオフィスビルとして建てられた。四国の玄関ともいえる高松に、新しい銀行建築として庶民に開かれた公共性の高い建築というコンセプトで設計されたが、今もお高松の港に向かって高松の象徴としてすくくと建っている。計画は4ブロックに分かれた敷地の最適利用から始められ、わが国初めての高さ45mの高層にすることで、道路を始めとして裏の駐車場をゆったりとしたオープンスペースとして空間を地域に提供し、民間企業による街区整備の役割をはたしている。駐車場と隣地の境の壁は常緑の多種のつた仕上げとなっており、地域に空間と緑を提供しているが、そこに施主と設計者の共通の建築に対する思想を見る思いがした。銀行の本店建築であるが、庶民に親しまれる銀行をという施主の考えを受けて、銀行の中核部分以外は開放的に設計され、気楽に利用できる雰囲気は現在でも生きている。正面道路に面したブロンズ緑青仕上げの象徴的な壁は、時間と共に美しくなる建築という設計者の意図どおり味のある表情となっており、1階の営業室の床に使われた高松産の「庵治石」の扱いや、内壁に使われたトラパーチンのディテールなど、設計者の材料に対する見識と情熱、また、それをなし遂げた施工者の職人としての心意気を感じられる。

当時としては経験のなかった高層ビルの工事に対して、施工者、下請業者が一体となって工事にあたったことは、外装・内装の仕上げ精度からも察する事ができるが、それは設備についてもいえることで、時間を超えて性能を保証している。また、管理については、所有者と同じ株式会社百十四ビルであることから、銀行業務にも精通し綿密な管理運営がなされている。維持保全については年度計画をたてて積極的に行われており、そのマニュアルは維持保全管理の手本ともみえ、実際の現地視察をとおしても、どの場所も隅々まで清潔が保たれていた。また、竣工後の細かい部分的変更や模様替えについて常に設計者と連絡をとり、設計の意図との整合を図っているとのことで、施主、設計者、施工者、管理者一体となった設計への心を知ることができる。